

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 247人

② 数学 247人

5 留意事項

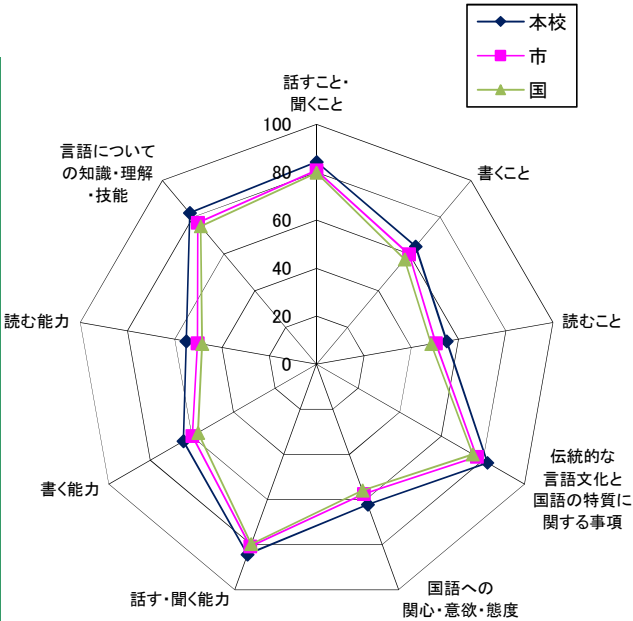
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	84.3	80.8	79.8
	書くこと	64.1	59.8	57.1
	読むこと	55.1	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.2	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	62.2	57.5	56.0
	話す・聞く能力	84.3	80.8	79.8
	書く能力	64.1	59.8	57.1
	読む能力	55.1	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	82.2	77.0	75.1



★指導の工夫と改善

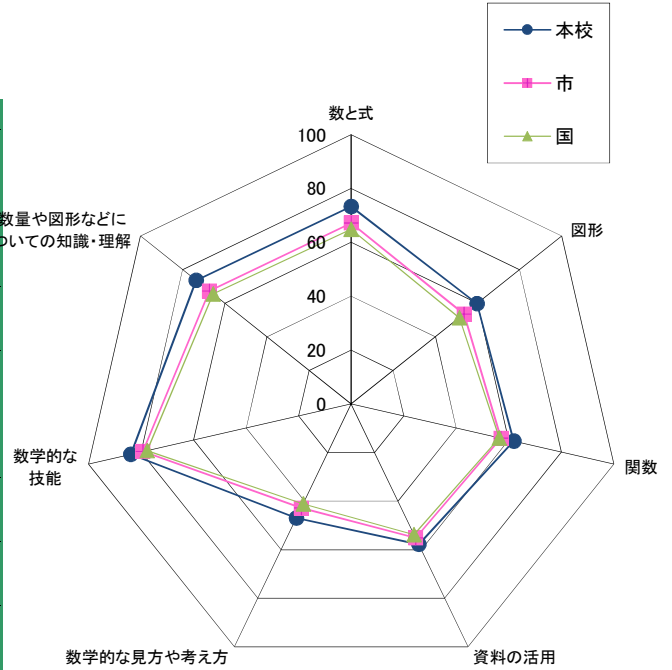
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は全国平均を4.5ポイント、市平均を3.5ポイント上回っている。 ●特に、「話し合いの話題や方向を捉えて話す内容を考える」設問では、正答率が同領域の他の設問より正答率を大きく下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・他者の立場や考えの違いを認める雰囲気作りに努め、主体的に考え対話的な学びによって考えを表現し合うことで、互いに納得する結論を導き出すことのできる活動になるよう指導していきたい。また、様々な見方や考えから共通点や相違点を整理したり、自分とは異なる考え方を知り、自分の考えを再構築したりするなど、考えを広げたり、深めたりする言語活動の充実に努めていきたい。
書くこと	○正答率は全国平均7ポイント、市平均を4.3ポイント上回っている。 ●「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」設問では、無答率が5.3ポイントいることから、書くことが苦手ではじめから諦めてしまう生徒がいると推測される。	・自分の考えが伝わる文章を書くために、自分の考えの根拠となる資料や図表を適切に引用したり、体験や知識を活用したりするなど、指導の工夫が必要である。また、理由を明確にしたり、文章構成を考えたりする活動を多く取り入れ、根拠を明確にして、自分の考えを書く力の習得につなげていきたい。
読むこと	○正答率は全国平均を6.6ポイント、市平均を4.7ポイント上回っている。特に、「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」設問では、正答率が全国平均を10.5ポイント、県平均を10.8ポイント上回っている。 ●「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」設問では、全国平均を0.7ポイント下回っている。	・文章の内容や構成を正しく把握し、理解したことや考えたことを記録したり文章にまとめたりするような活動を取り入れ、どのようにその考えに至ったのかを振り返るよう指導していきたい。また、まとめり同士の関係や、事実と推測、根拠・理由と結論、表現から伝わる考え方などを捉える学習を積み重ねていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は全国平均7.1ポイント、市平均を6.1ポイント上回っている。特に、「相手や場に応じて敬語を適切に使う」設問では、正答率が全国平均を19.6ポイント、県平均を約13ポイント上回っている。	・国語科だけでなく各教科等の学習や社会生活における文字を書く場面や状況を想定し、その目的や必要に応じて効果的な文字の書き方を学習する活動を取り入れていきたい。また、その際、読み手や伝える相手を意識し、様々な書式に合わせて、適切な字形や書体、筆記具で書く指導を行っていきたい。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	73.3	67.2	64.9
	図形	59.7	53.6	51.4
	関数	61.9	57.0	56.4
	資料の活用	57.8	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	47.0	42.8	41.1
	数学的な技能	83.9	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	73.6	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○ 正答率は、県平均を6.1ポイント、国平均を8.4ポイント上回っている。 ● 各設問においては、平均して8割近くの正答率があるものの、「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」の設問については、著しく正答率が低くなっている。	・正答率は8割と高めではあったが、簡単な計算でのケアレスミスがあったので、普段の授業の中で基礎的な計算に取り組む時間を取り入れるようにする。 ・説明する力をつけていくために、グループ活動やペア活動の時間を取り入れ、自分の考えを言葉で説明する機会を増やしていく。
図形	○ 正答率は、県平均を6.1ポイント、国平均を8.3ポイント上回っている。 ● 「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる」の設問や、「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる」の設問のように、自分の言葉で説明する問題の正答率が低い。	・もう一度、三角形の合同条件や、平行四辺形になるための条件を確認し、問題の中でどの条件を使ったらよいかを考えさせる。 ・言葉や図形に関する定義や定理は、文字でまとめるだけでなく、証明を通して生徒自身がなぜ成り立つのかを考えるようにしたい。
関数	○ 正答率は、県平均を4.9ポイント、国平均を5.5ポイント上回っている。 ● 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」の設問はこの領域において最も低く、32.0ポイントだった。また、「関数の意味を理解している」の設問では56.7ポイントと約5割の正答率であった。	・関数の定義を理解できていない生徒が約半数いるので、どの数量がどの数量に対しての関数になっているのかを考えさせたい。関数の概念の話をする必要がある。 ・関数領域では、図形領域との複合問題がよく見られるので、図形領域と連携した指導をしていくように努める。
資料の活用	○ 正答率は、県平均を2.7ポイント、国平均を4.0ポイント上回っている。 ● 「データの傾向を的確に考え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」の設問は全ての設問の中で最も正答率が低く、11.3ポイントであり、無回答も26.7ポイントと高かった。	・階級値、中央値、平均値、最頻値、相対度数などの基本用語の意味を再確認する必要がある。それぞれの値はどのような場面で使えるのかを、資料を用いながら身につけさせる。 ・2つのデータを見比べた時に、それぞれの特徴をとらえつつ、どちらの方が効率的であるのかを、場面を考えながらグループで話かせていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○朝食摂取率、就寝や起床時間の状況からほとんどの生徒が規則正しい生活を送っている。
○携帯、スマートフォン、PCの使い方については、家庭で約束したことを守っており、平日の利用時間についても「全くない」と答えている生徒が県や全国よりも多いことが分かった。
○将来の夢や目標を持っている生徒は7割を占めており、自分で決めたことをやり抜く姿勢や失敗を恐れず挑戦する姿勢をもつ生徒は、県や全国よりもポイントが上回っている。
●自己肯定感を持っている生徒が県のポイントより2.3ポイント低い。学校生活の場面でできたことを称賛したり、学校行事で達成感を味わわせたりして、自分の行動に自信をもたせたい。
○「いじめ根絶集会」や「いじめゼロ宣言」などの取組を行っており、日頃からいじめに対して意識した学校生活が送られている。その成果から、いじめを肯定する生徒はほとんどいない。
○総合的な学習の時間や学級活動、道徳の時間を通して話し合い活動は充実したものになっており、自分と違う意見について考えることを楽しいと思っている生徒が多い。また、友人の話を聞いて自分の考えを広げたり、学んだことを生かして自分の考えを形成しようとしていたりしている生徒も多い。
●自分の思っていることなどを言葉で表すことを苦手としている生徒が県より1.4ポイント低く、全国よりは1.4ポイント高くなっている。今後も自分の考えを整理して伝える活動を取り入れていきたい。
○コロナ禍で現在地域の活動に積極的に参加している生徒の割合は5割に満たないが、地域に何か貢献したいと思っている生徒は6割程度で、県より8ポイント、全国より14ポイント高くなっている。
○学習においては、自分で調べて進めている生徒が多く、ICT機器についても積極的に活用しており、読書率も高い傾向にある。
○コロナ感染防止のための休業期間は、学習において不安を感じた生徒が7割程度だったが、計画的に学習を進めたり、規則正しい生活を送っていた生徒の割合は県や全国よりも多かった。

宇都宮市立陽東中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	①主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 ②タブレット端末を活用した個別最適化された学びの実現 ③生徒自らが学びに向かう学習評価の在り方	○質問32「自分の考えを整理して話そうとしている。」では、県の肯定割合が65.2Pであるのに対し、77.8Pと12P以上上回っている。また、質問34の「学んだことから自分の考えを形成している。」では、県の肯定割合が64.6Pであるのに対し、70.7Pと大きく上回っている。さらに、質問36や37から、友人との話し合い活動を通して自分の考えを広めていることがわかる。このことから生徒たちが主体的に対話活動を行っていると言える。 ○コンピューターなどのICT機器を用いた学習についての傾向はほぼ全国並みであるが、Qubena等の教材の開発や総合的な学習の時間での調べ学習の質の向上に伴い、生徒のタブレットの使用頻度は増してきていると言える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
●質問6や質問13から自己肯定感があまりなかったり、学校を楽しくないと思ったりしている生徒がいる。 ●国語や英語の学習を好きでない生徒の割合が県に比べて高い。	・わかる授業、対話活動のさらなる充実 ・教師、生徒のタブレット活用能力の向上 ・生徒一人ひとりを認め、大切に学校風土の醸成 ・魅力ある学校行事の精選	・教科を学ぶ意味や楽しさを味わわせる授業作りや対話活動をさらに充実させていけるよう校内研修や教科部会を通して共通理解を図る。 ・日常的にタブレット端末を使うことにより操作の技術を向上させるとともに、校内研修等において効果的な活用方法について実践事例を共有する等、研究を重ねる。 ・生徒にとって居心地の良い学校となるよう教育相談や学校生活アンケート等を充実させるとともに魅力ある学校行事等の精選に努める。